



2025年12月15日

各 位

会 社 名 H a m e e 株 式 会 社  
代表者名 代表取締役社長 水 島 育 大  
(コード番号: 3134 東証スタンダード)  
問 合 せ 先 経営企画部マネージャー 國 井 俊 樹  
(TEL. 0465-25-0260)

## 2026年4月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と決算値との差異及び 2026年4月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2025年6月13日に公表した2026年4月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と、本日公表の実績値に差異が生じましたので下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、2025年9月30日に公表した2026年4月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2026年4月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異（2025年4月1日～2025年10月31日）

### ①差異の内容

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主 に帰属する 中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想（A）	百万円 11,940	百万円 1,196	百万円 1,139	百万円 771	円 銭 47.34
実 績 値 (B)	11,232	705	547	299	18.78
増 減 額 (B - A)	△708	△491	△592	△472	
増 減 率 (%)	△5.9%	△41.1%	△52.0%	△61.2%	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2025年4月期第2四半期)	10,677	1,021	1,033	665	41.77

### ②差異の理由

2026年4月期第2四半期累計期間の連結業績につきましては、物価高による個人消費の伸び悩みや、米国の関税政策をはじめとする国際経済環境の不透明感等の影響に加え、当社事業を取り巻く競争環境の激化等もあり、売上高および各段階利益はいずれも当初予想を下回る結果となりました。

売上高につきましては、モバイルライフ事業において、新型iPhone17シリーズ関連商品の販売が当初見込みを下回ったことに加え、iPhoneの高価格化や店舗における新型iPhoneの取り扱い姿勢のトーンダウン等を背景に卸販売が不調で推移し、卸売チャネル全体として販売が伸び悩みました。また、ゲーミングアクセサリー事業では、ゲーミングモニターブランド「Pixio（ピクシオ）」が大手ECモールにおいて当該カテゴリーNo.1の地位を維持するなど一定の成果を上げたものの、市場全体の供給過多や新規参入・既存競合各社による低価格帯製品の投入が続き、価格競争が一段と激化した結果、セール期の販売が想定を下回り、当初計画に届かない水準での推移となりました。

営業利益につきましては、上記の売上高の計画未達に加え、コスメティクス事業において第1四半期に卸先問屋変更に伴う一時的なコストや商品評価損が発生したこと、ドラッグストア展開拡大に伴う什器・サンプル品等の販売促進費および物流費が増加したことにより、収益性が圧迫されました。さらに、グローバル事業においては、米国向け商品の関税負担の継続に伴う利益率の低下や、海外子会社の人事費・物流費の増加等の影響も重なり、営業利益は当初計画を下回りました。

経常利益につきましては、2025年1月にPixio USA Inc.を持分法適用会社としたことに伴い、同社から仕入れているゲーミングアクセサリー関連商品の未実現利益が増加し、持分法損益にマイナス影響が生じたことなどにより、当初予想を下回りました。

親会社に帰属する中間純利益につきましても、上記のとおり営業利益および経常利益が計画を下回ったことの影響等により、当初予想を下回る結果となりました。

## 2. 2026年4月期通期連結業績予想数値の修正（2025年5月1日～2026年4月30日）

### ①修正の内容

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	一株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	23,285	2,073	1,990	1,417	86.99
今回修正予想（B）	21,673	723	479	152	9.33
増減額（B-A）	△1,612	△1,350	△1,511	△1,265	—
増減率（%）	△6.9%	△65.1%	△75.9%	△89.3%	—
（ご参考）前期連結実績 (2025年4月期)	22,895	2,354	2,352	1,278	80.15

### ②修正の理由

		売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益
上期	前回公表	11,940	1,196	1,139	771
	今回公表	11,232	705	547	299
	増減額	△708	△491	△592	△472
下期	前回公表	11,344	877	851	646
	今回公表	10,441	17	△68	△147
	増減額	△903	△860	△919	△793
通期	前回公表	23,285	2,073	1,990	1,417
	今回公表	21,673	723	479	152
	増減額	△1,612	△1,350	△1,511	△1,265

#### (上期影響)

上記「2026年4月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異」をご参照ください。

#### (下期影響)

第2四半期連結累計期間までの業績水準が大きく変動しないことを前提として、通期業績予想数値を修正しております。

#### モバイルライフ事業

卸売チャネルを取り巻く厳しい環境を踏まえつつ、下期で上期のビハインドを挽回し、通期で前年同期比100%水準の達成を目指す前提に見直しております。そのうえで、ECチャネルにおいて売上成長を牽引する計画としています。具体的には、既存計画に織り込んでいた商品に加え、新商品を投入することで売上確保を優先する方針です。一方で、広告宣伝費等の増加を見込んでおり、営業利益率については一定の低下を前提としております。

#### コスメティクス事業

下期の売上計画をチャネル別に精査した結果、ECチャネルの見通しをやや慎重に見直しております。とりわけ、一部ECにおいて足元の動向を踏まえ、特に3月の需要を保守的に見積もったことから、EC売上の計画を引き下げる一方、ドラッグストア等における卸売については計画を上方方向に見直し、全体としてバランスを取り直した形となっております。利益面では、インナービューティーブランド「ByGLOW」への投資時期が第3四半期および第4四半期に集中することや、原価改善計画および販売促進費の見通しを改めて織り込んだ結果、現在の延長水準を見込んでおります。

#### ゲーミングアクセサリー事業

モニターカテゴリーにおける供給過多や、海外メーカーを中心とした低価格帯製品の投入が続くなど、下期以降も厳しい価格競争が継続するものと想定し、売上計画を保守的な水準へ見直しております。今後は、モニターアーム等のアクセサリーラインの拡充や、既存モニター製品のアップグレード、新シリーズ開発に注力するとともに、価格帯や商品ラインナップの見直しについても、市場動向を踏まえながら慎重に検討を進めてまいります。

#### グローバル事業

関税政策の影響が下期以降も継続し、サプライチェーンの混乱や調達・物流コストの上昇が想定されることから、グローバル事業全体の売上・利益に下押し圧力が継続する見通しですが、販売価格の見直し等により、徐々に売上・利益の改善に努めてまいります。

(注) 上記業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上